総合教育センターだより

街路樹

発行　第　７８　号

平成２５年１２月１８日（水）

いわき市総合教育センター

いわき市平字堂根町１－４

０２４６（２２）３７０５

保幼小連携は相互理解から

～「保幼小連携講座」より～

「小学校入学までに身につけるべき生活習慣や小学校入門期の指導内容など、小学校の先生に直接聞くことができ、今後の保育に大変参考になりました。」これは、今年度の保幼小連携講座に参加した多くの幼稚園・保育所の先生方から寄せられた感想です。

会場校である大浦小（連携園：四倉二幼・三宝保育園）の実践では、「園児と児童の交流」「教職員間の密接な連携」「保護者との連携・理解啓発」の３点が連携の大きな柱となっています。発表当日は、小学校１年生と年長組の子どもたちの交流活動、会場校の実践報告、協議「保幼小連携の取り組みと課題」がありました。ここで、小学校への円滑な接続に向けた連携について、会場校の取り組みを何点か紹介します。

１点目は、小学校入学までに身につけさせるべき生活習慣（「１年生になる前にチェックカード」）を教職員間の連携で作成したことです。双方の教職員が集まり、各園で実施した園児の実態調査をもとに、就学前と小学校の教育内容や指導方法について相互理解を深めました。２点目は、作成したチェックカードを各家庭に配付・啓発したことです。各園で実施した、チェックカードの項目に沿った保護者のアンケートの集計結果をもとに、小学校入学時の段差を少しでもなくすため、家庭への取り組みを働きかけました。３点目は、保幼小連携に関わる校内体制の整備です。大浦小では、校務分掌の中に「保幼小連携部」を設置し、窓口の一本化を図り、教師間の連絡調整や学校全体・園全体で情報の共有化をしました。

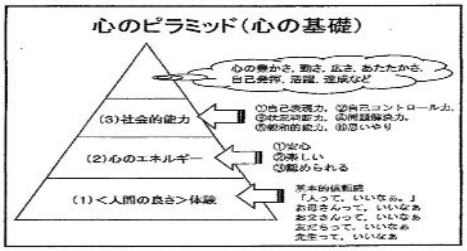
保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領が改訂され、保育所・幼稚園と小学校が連携することが必要であり、就学前保育・教育と小学校教育の円滑な接続の重要性が明記されました。会場校の取り組みは、小学校への円滑な接続に向け、大いに参考になる取り組みだと思います。最後に、採用２年目の幼稚園の先生の感想を紹介します。「幼稚園の教員が小学校について知るだけでなく、小学校の先生も幼稚園について知ることも大切でないかと思いました。」まさに、保幼小の相互理解の重要性を訴えていると感じました。

教育実践研究発表大会の案内

不登校対策講座から

～「心のピラミッドを視点に」～

11月21日(木)早稲田大学教授 菅野純先生を講師に、「不登校対策講座」が行われました。最近の不登校の特徴、不登校をとらえる視点、社会的能力の育成、登校行動の4条件や、不登校への支援方法などをご講義いただきました。以下、主な内容を紹介します。



心の基礎づくり「心のピラミッド」を基にした解説（上図参照）では、学校ができることとして、(1)では先生は子どもとの関係性を1mmでも2mmでも近づけることに努めること、(2)では子どものプラスの変身に「できるようになったね」と声をかけ、元気・やる気の源をつくること、(3)ではみんなで声をかけていくという職員間の共通理解を大切にすることが強調されていました。

講義の中で「先生がくれた1つの○（認める）が、人生を支えている」という菅野純先生ご自身の経験が紹介されました。研修者からは、「その子のよさを見取り、認めるという全人的かつ継続的な営みを改めて実践したい」という感想が寄せられました。

教育相談係から

12月になると、不登校の中学3年生をもつ親からの進路に関わる相談が多くなりますが、受験に向けて不安感が増すのは、すべての中学3年生に共通していることと思います。また、小学生は、学校行事がほとんど終わり、目の前の励みや目標が減り、意欲や達成感が得にくくなる時期でもあります。学期末は教員にとってもせわしない時期ですが、日頃から悩みや不平を持つ子どもたちへの気配りや適時な教育相談が大切です。同時に学年や学級を越えた情報交換も大切にしたいものです。

ともに学ぶ

～いわきの未来 子どもたちのために～

本大会は、市内小・中学校における教育実践のさらなる向上に寄与することを目的として開催しております。

本年度は、教育実践研究の第一人者として活躍されている東京大学大学院教育学研究科教授の秋田喜代美先生のご講演をはじめ、本センター調査研究委員会による学校の教育実践に役立つ2年間の研究報告を予定しております。

平成26年2月1日（土）に開催いたします。多くの先生方のご参加をお待ちしております。